

増長天立像(平安時代前期)

持国天立像(平安時代前期)

「行基大菩薩御作」と記された

奈良大学蔵

四天王像

さとがえり公開

150年ぶり!!

行基さんと蓮の寺
喜光寺

2019年5月2日(木)～9月2日(月)

拝観時間 9時～16時30分 境内拝観料 大人500円 小人300円

奈良大学蔵 四天王像 さとがえり公開 行基伝承の四天王がそろってさとがえり!

平成26年から奈良大学で解体修理・補作が行われた木造四天王像。四天王像から墨書銘文(2写真)が発見され、四天王像が菅原寺(喜光寺)に安置されていたことが確認されました。今回、奈良大学の協力をえて150年ぶりに喜光寺に四天王が四体そろって「さとがえり」されます。ぜひ、ご参拝ください

喜光寺(菅原寺)は、721年に行基菩薩により開創され、749年に行基菩薩が入寂された行基菩薩ゆかりの寺院です。喜光寺にのこる記録によると、四天王像は享保15年(1730)に修理されて「試みの大仏殿」とよばれる本堂(国重文)にまつられたことが確認されています。その後、喜光寺は、明治時代の神仏分離令の影響から廃寺寸前まで荒れてしまいました。四天王像はここに、喜光寺から他寺にうつったと考えられます。

四天王像は、木造(ヒノキ・一部ケヤキ)の寄木造りで、平安時代末期から鎌倉時代前期に造立されました。残念ながら奈良時代の行基菩薩までさかのぼることはできませんが、四天王像は現在までに数度の丁寧な修理が行われており、大切に守られてきたことがうかがえます。胎内の墨書は江戸時代初期の修理の際に書かれたものと考えられます。行基菩薩作の像であるという伝承と信仰から当時の人びとが丁寧に修理をしてきたことが推測できます。また入寂の寺である喜光寺に安置されていたことは行基信仰をあらわす貴重な四天王像です。

今回、平成26年度から奈良大学で実施されてきた解体修理のなかで墨書銘文が発見されたご縁から、明治時代以来150年ぶりに喜光寺で公開されます。

行基大菩薩御作 菅原寺



行基さんと蓮の寺
喜光寺

〒631-084 奈良市菅原町508番地
【問合せ】 電話0742-45-4630
【交通のご案内】
近鉄橿原線尼ヶ辻駅下車徒歩10分
阪奈道路 阪奈菅原交差点そば



特別プログラム 記念講演会

7月15日(月)午後1時～3時30分

「四天王像のたどった道」

奈良大学 副学長
関根 俊一 先生

※講演後、本堂にて四天王像の現地解説を開催。

「行基菩薩と喜光寺」

喜光寺
山田 法胤 住職

参加費無料(拝観料のみ必要)
事前申込み不要
問合せは喜光寺まで
(電話0742-45-4630)

- 1 増長天像(画像提供・奈良大学)
- 2 多聞天胎内墨書銘文(部分)
- 3 持国天像(画像提供・奈良大学)
- 4 奈良大学での修理の様子(画像提供・奈良大学)
- 5 四天王像を表敬参拝
- 6 広目天像(画像提供・奈良大学)
- 7 多聞天像シルエット(4月末まで修復作業中)